

経験はたからもの

「少年」





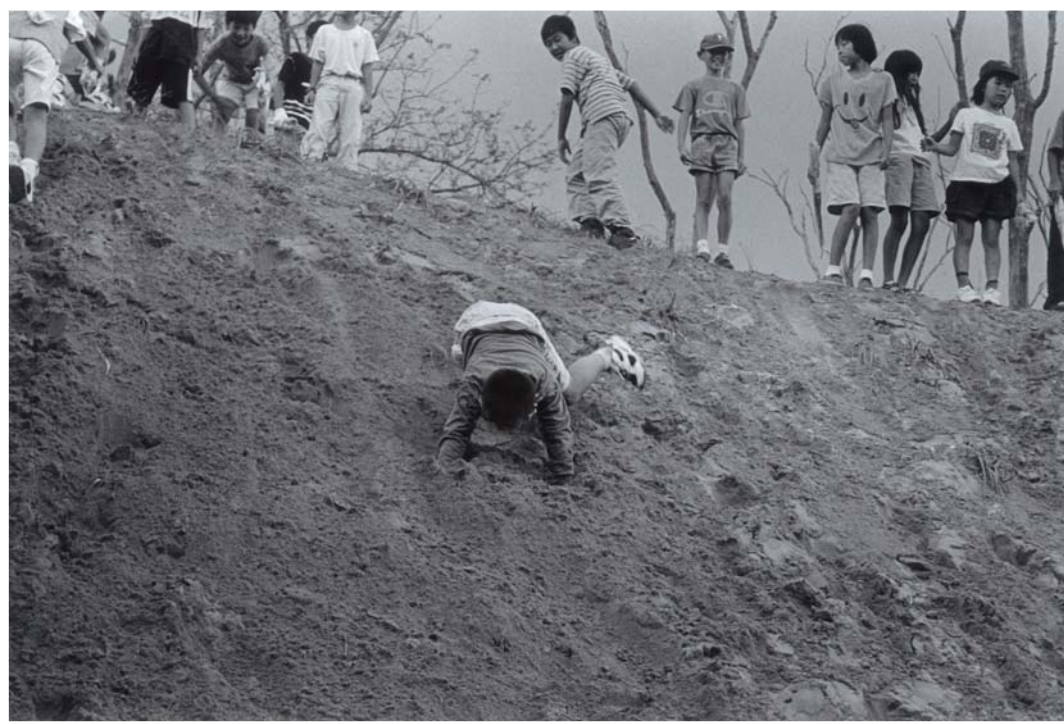
「マー君はどこ行った？」
「さっきあそこ歩いとったでえ」
首から補聴器をつり下げているマー君。
海の見える小さな港町では、
誰もが知っています。
温かい小さな社会の中
耳が聞こえないことに
不便を感じることはありません。

「夏休み」

ろう学校に通っているマー君。
となり町へ引っ越したのは
小学校5年生のとき。
交流校として週1回通っていた学校も
転校しなければならなくなりました。
新しい学校は児童がたくさん。
そこには“マー君”を知っている人は
一人もいません。
マー君が社会へ関わり始めた瞬間でした。



「遊び」



**交流校にも少し慣れてきたある日。
マー君はげた箱にあるはずの上靴の片方を
見つけることができません。**

**ふと視線の先に上靴を持ってこっちを
見ている男の子3人組が見えました。**

「かえせっ！」

**とっさに大きな声で叫ぶマー君の声に
びっくりしたのでしょうか、3人組はすぐ
上靴を残して、その場から立ち去りました。**

「言うときは言うんだ！」

**耳は聞こえなくても
訓練によって言葉を話すことができます。
発声力は人それぞれだけど、
発声にはけっこう自信があったのです。**



**「君は聞こえないから危ないよ」
3人組のボスはマー君を野球のメンバーに
入れてくれようとはしませんでした。
マー君のことを心配して
言ってくれたのでしょうか。
ただ仲間外れにしようとしたのでしょうか。
本当のところは分からないけれども…。**

「記念写真」

味方になってくれる友達もいました。

「大丈夫だろ、マー君にもできるよ」

「いや危ないからダメだ！」

彼らが言い合いを続ける中に

マー君は割って入りました。

「ぼくはできるよ！

やってみないと分からないだろっ」



「祭りの日」



**マー君はいつも冷静に考えて行動できます。
勇気を出して挑戦した結果がどうなるか。**

**悩んだ時にどうした方が
将来の自分の利益になるか。**

この時の行動も

**それに沿ったものだったのでしょよう。
試合では、見事にヒットを打ちました。**

**守備でも活躍する姿を見て、
周りの見る目は変わりました。**

「ポーズ」

**「耳に障がいがあっても
みんなと同じように遊べるんだ」
マー君が自信をもって
社会に入っていくきっかけになりました。
耳が聞こえなくても、
友達是可以る。
野球もできる。
ケンカだってできる。
交流校での日々はマー君の
かけがえの無い宝になりました。」**





**そんなことを思い出しながら
マー君はいま、教壇に立っています。
同じように耳に障がいがある
子どもたちのために。**

「そう、教師にだってなれるんだ！」



「聴覚・言語障がい」について

聴覚障がいには、まったく聞こえない「ろうあ」と聞こえにくい「難聴」があります。言語障がいには、言葉の理解や適切な表現が困難な「言語機能の障がい」と、言葉の発声だけが困難な「音声機能の障がい」があります。聴覚障がいと言語障がいも重複することもあります。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇適切なコミュニケーション方法を**確認**
(筆談、口話、手話、代用発声)
- ◇音声以外の情報伝達方法を使う
(ファクス、掲示板など)
- ◇聞き取りにくい場合は、分かったふりをせず内容を**確認**

あしがき

取材のため聾学校を訪問するまで、うまく話が聞けるか心配だったが、実際には彼に助けられた感がある。発音は上手でこちらの言葉の理解も早い。手話通訳者に同席してもらったが、普通に会話している感覚だった。取材ではいろいろなエピソードを聞かせてもらった。障がいをものともせず行動する姿勢に、自身もハッと気付

かされることも多々あった。教員として働く聾学校では、生徒に勉強を教える以外にも、伝えたいことがたくさんあるという。熱血漢あふれる思いに感服もした。自分も頑張らねば、という思いになり元気ももらった。この出会いを大切に、マー君のことも影ながら応援していこうと思う。(坂)